

1. はじめに

1 - 1. 調査の背景

2000年の統計によると、日本人の海外旅行者が1,782万人なのに対し、海外からの訪日旅行者は476万人で、およそ4:1という実態となっている。この不均衡を是正していくためにも、今後の我が国の観光振興にとって訪日旅行者の増加は大変重要である。

一方、WTO（世界観光機関）によると、21世紀初めに最も国際観光が成長する地域は東アジアであると予測されている。我が国においても、東アジアからの訪日旅行者は、一昨年の中国の団体観光客ビザの発給開始等の理由から、ここ5年間で60%近く伸びるなど急激な勢いで増加しており、今後「新ウェルカムプラン21」に謳われている、2007年までに訪日外国人旅行者800万人を実現するために、より一層の増大を図りたい重要な市場である。

関西地域にとっても、歴史的にも深いつながりのあるこの東アジアからの訪日旅行の推進は、地域活性化、国際相互理解のうえで大切なものと言える。今年度開催された「関西観光産業振興フォーラム」の特別決議においても、これからの関西は東アジアをターゲットに訪日旅行の推進のための情報提供を充実する旨を盛り込んでいる。

さらに、「新全国総合開発計画」において、「地域連携による観光をはじめとする地域産業振興、地域の活性化」「大都市に依存しない自立的な国際交流活動を可能とする広域国際交流圏の形成」が掲げられており、その施策の基本的な方向性として、「外国人観光客の増加に向けた施策展開」「地方圏への外国人観光客の誘致」が必要と謳われている。

1 - 2. 調査の目的

本調査は、これらの施策の基本的な方向性に沿い、それぞれ受け入れ窓口となる空港を備え、世界、特に急速に発展する東アジア地域と我が国との間の交流センターとしての機能の強化が求められている「関西地域」と、東アジアとの地理的・文化的な近接性が高く、歴史的にも我が国と東アジアとの交流において重要な役割を果たし、21世紀において成長が期待される「九州地域」の広域的な連携による、多様な観光資源を活用した有効かつ積極的な国際観光施策を展開し、東アジアをはじめとする外国人観光客の誘致を推進するために、外国人観光客のニーズ、自治体等の施策及び国際観光振興施策に関する調査を行うものである。

1 - 3 . 調査の内容

1 - 3 - 1 . 関西、九州地域を訪れる外国人観光客の観光ニーズ調査

訪日外国人旅行者数が伸び悩んでいる一つの原因として、海外からの観光客のニーズに合ったPRをしていないことが考えられるため、訪日目的、観光施設、宿泊施設、食事、ショッピング等分野別の観光ニーズを調査する。

- ・ 海外（アジア地域）での現地観光ニーズ調査

（各国観光関係団体、J N T O 各国観光宣伝事所、旅行代理店等に対するヒアリング調査）

- ・ 観光コンシェルジェサイトの構築及び試験的運用によるニーズ調査

観光コンシェルジェサイトとは、関西、九州地域の住民から観光ボランティアを選定し、これらのボランティアと内外の観光客がインターネットを通じて観光の前後に双方向のコミュニケーションを行うことができるホームページ上での情報交流システムをいう。

1 - 3 - 2 . 各調査結果の分析・検討

各調査の結果を基に、広域的な国際観光振興施策のあり方について分類整理し、分析する。

1 - 3 - 3 . 広域的な国際観光振興施策の方向性

府県市域や官民の壁を越えた広域的に連携した国際観光振興施策の基本的な方向性を検討する。

1 - 3 - 4 . 広域的な国際観光振興施策の具体的戦略の検討

広域的に連携した国際観光振興施策を実現するため、重点的に取り組むべき課題の整理と実現可能な具体的な戦略を検討する。